

ア ジ ア 日 誌

6 月 15 日 — 7 月 14 日

東 ア ジ ア

中国, 台湾, 南・北朝鮮, モンゴル, チベット, 香港, 日本

6 月 15 日

◆韓国軍事政権, 銀行預金の一部の凍結を解除。

◆大蔵省, 三菱商事の韓国向けのテレビ輸出に延べ払い延長を許可。

6 月 16 日

◆韓国, 宋首相と千財務長官辞任。

6 月 18 日

◆韓国朴議長, 内閣首班を兼任することに決定。これで大統領代行と最高会議議長の三職を兼任となる。

6 月 19 日

◆中国人民政治協商会議全国委員会常務委員会の第31回会議開会。

◆北京市第4期人民代表大会, 彭真氏を北京市長に選出。

◆アメリカは駐韓アメリカ軍の裁判管轄権に関する行政協定交渉再開に条件つきで同意。

6 月 20 日

◆中国, 時計・自転車などの輸入関税を大幅に引き上げ。

◆アメリカ当局筋, 金門馬祖の対岸に中共軍が大挙集結中と言明。

◆北朝鮮最高会議開会。南北不可侵協約締結と, アメリカ軍撤退後の緊張緩和のため双方の軍隊を縮小することを南朝鮮に提案。

◆ケネディ大統領, 駐日経済担当公使にガードナー氏を任命。

6 月 22 日

◆毛主席, 中国訪問中の朝鮮議会議長と会見。

◆国府国防省, 中共軍の攻撃に備え, 金門馬祖の守備隊に警戒体制を取らせたと言明。

6 月 23 日

◆中国政府筋, 「アメリカの支援で蒋介石一味が中国沿海地区への侵入を準備している」と語る。

◆中国, ラオス新政府を承認。

◆駐ポーランド中共大使, ワルシャワでアメリカ大使と会談。ここで台湾海峡の軍事行動についてアメリカに直接の警告。

◆北朝鮮赤十字, 北朝鮮帰還協定の1年延長を申し入れ, 日赤, 延長は断わる旨近く回答するみこみ。

6 月 24 日

◆中ソ科学技術協力委員会, 来年度の科学技術協力計画を承認。

◆フェイ・アメリカ海軍次官, 金門島を視察。

6 月 25 日

◆香港紙, 中国の沿岸兵力増強につき国府のかく乱工作と報道。

◆アメリカの国府駐在大使, 着任の際ケネディ大統領から蔣総統に親書を携行する予定と語る。

◆ラスク・アメリカ国務長官, ヒューム・イギリス外相との会談で「中共は大規模な攻撃を企図していない」と意見が一致。

◆北京商談につき, 国際貿易促進協会は「西欧の“延べ払い攻勢”でわが国の対中共輸出はふるわず, 成約高はわずかに4億円にとどまっている」と発表。

◆キャラウェー沖繩高等弁務官, 沖繩自民党幹部に減税中止を要望。

◆防衛庁海上幕僚筋の情報によれば, 横須賀の第7艦隊はほとんど出動している。

6 月 26 日

◆中国労組代表モロック着。

◆アメリカ国務省スポークスマン, 「アメリカ艦隊の移動について日本政府に情報を知らせた」と語る。

◆アメリカ太平洋艦隊司令部スポークスマン, 「第7艦隊は台湾方面に配置されたが, そのなかには横須賀

基地の艦隊も含まれている」と言明。

◆池田首相, 「アメリカ第7艦隊の出港は事前協議の対象にはならない」と語る。

6 月 27 日

◆ケ大統領27日の記者会見で, 台湾海峡での武力行動について中国に公然と警告を発した。

6 月 28 日

◆中国とユーゴ, パーター議定書に調印。

◆アメリカが国府軍による中共攻撃に全面的反対であるむね国府側に通告したと伝えられる。

◆韓国, 「言論政策」を発表。新聞の統合, 腐敗記者追放のねらい。

6 月 29 日

◆朱徳中国全国人民代表常務委員長, 台湾情勢の悪化はアメリカの陰謀によるものと非難。

6 月 30 日

◆日本政府, 西パキスタンに電気通信研究センター設置の方針をきめ, 7月6日に調査団を派遣する。

7 月 1 日

◆ワルシャワでアメリカ・中国会談。台湾海峡の緊張緩和をはかる。

7 月 3 日

◆中国・チェコ科学技術協力議定書調印。

◆日本政府, カンボジアの対日ガット35条援用を阻止するため, カンボジアに対して農業開発のための総合援助を実施する方針をかためた。

7 月 4 日

◆中国, 帰国華僑のため新大学開設。

◆大蔵省, インドネシアから要求されている賠償引き当て借款について, 全額は応じられないとしても, 一部には応じるとの方針を決定。

◆ブライス米下院議員, 「アメリカは極東に駐兵を続ける必要がある間は

沖繩を返還しないだろう」と語る。

7月5日

◆カーク駐国府アメリカ大使、蔣總統に信任状を提出。

◆東久邇、片山、石橋元首相、「アジアの平和を維持のため台湾海峡の平和を望む」旨のアピールを発表。

7月6日

◆国府、ケネディ親書で、大陸反攻に関して苦境におちいる。

◆国府、ラオスの中国承認に抗議。

7月7日

◆中印両国、大使交換を中止。

7月8日

◆中国西北部で古代の宮殿等発見。

7月10日

◆中国共産党、政府指導者、モンゴル革命記念日にメッセージを送る。

◆中国・ギニア今年度貿易協定書に調印。

7月11日

◆朝鮮休戦委朝中側代表、アメリカ側に抑留漁夫引き渡しを要求。

◆中国が6万4000トンの鋼材買付けを日本に申し出た。

◆日本鉄鋼業界、中国向け鉄鋼の延べ払い輸出につき本格的検討開始。

7月12日

◆中国とインド、国境紛争で非難応酬。双方とも発砲は禁止。

7月13日

◆中国、「インドが中印国境で軍事衝突を挑発している」と非難。

◆北朝鮮紙、アメリカの南朝鮮での戦争準備暴露。

◆韓国、封鎖された銀行預金の3分の1の封鎖を解除。この措置は通貨改革の失敗を事実上認めたもの。

◆日本、国連債500万ドルを買うことを誓約。金額で第6位。

東南アジア

フィリピン、タイ、南・北ベトナム、ラオス、カンボジア、マラヤ、シンガポール、インドネシア、北ボルネオ、サラワク

6月15日

◆ラオス国民議会、ラオス3派の連合政府樹立に関する協定を承認。

6月16日

◆プーマ派、ラオス議会在3派首脳会談の結果を承認したことで、アメリカの援助再開の決定を非難。

◆カンボジアに日本が農業、畜産、医療の3センターを設置するため近く協定に署名のはこび。

6月17日

◆サリット・タイ首相、カンボジアがタイ・カンボジア国境に軍隊を出動させたこと非難。その後タイも国境に増援部隊を派遣すると発表。

◆エイムリ・イギリス航空相、南ベトナム訪問。

◆ウ国連事務総長、インドネシアに西イリアン交渉の再開を要請。

◆オランダ、西イリアン解決のためのバンカー調停案を受諾。

6月18日

◆ラオス新政府成立遅れる。新政府成立布告のなかに「国会が連合政府樹立協定を承認したので新政府がつくられた」とあるのに中立・左派が反対したため。

◆インドネシア、日本に砂糖の輸出を申し入れる。

6月19日

◆タイ、国際司法裁判がタイ・カンボジア国境紛争に関してタイに不利な裁定を下したことに憤慨し、ラオス会議とSEATO代表部から代表を引き揚げた。

◆ラオスのプーマ殿下、ノサバン將軍が「3派の軍、行政機構が統合されるまで、連合政府は権力を行使すべきでない」と提案していることに對して非難の声明を発表。

6月20日

◆ベトナム労働党、北ベトナムの工業化についての決議を採択。

◆ラオス右派、連合政府就任に関する勅令中の「国民議会承認」を述べた個所の削除を拒否。

◆ウ国連事務総長、インドネシアに対して、「オランダは施政権の譲渡を認めている」と保証。

6月21日

◆タイ・サリット首相、タイ・カン

ボジア国境紛争に関して国際司法裁判の判決に従うと発表。

◆南ベトナム人民武装部隊、蔣介石残存部隊を攻撃。

◆南ベトナムで2カ月間に100万人余りの反アメリカ集会。

◆ラオス新政府任命に関して全権の国王委任に3派の意見が一致。

◆アメリカ、西イリアン交渉につき、26日に交渉再開を提案。

6月22日

◆フィリピン副大統領、「フィリピンは北ボルネオにたいする領有権を主張するため国連憲章のワク内であらゆる手段をとる」と語る。

◆タイ、対ポーランド貿易禁止。さきの国際司法裁判の裁判長をポーランドの判事が勤めたためらしい。

◆ホー・チミン北ベトナム大統領訪ソ。

6月23日

◆南ベトナム解放戦線、代表団を海外に派遣。

◆ラオス臨時連合政府、バツタナ国王の任命で成立。

◆インドネシア軍部異動。ナスチオン国防省兼陸軍参謀長を陸海空軍、警察を含めた国軍総参謀長に任命。また陸軍参謀長にはアハマド・ヤニ少将を任命。

◆オランダ共産党、政府の西イリアン政策を非難。

6月24日

◆ラオス新政府、初閣議を開き、その後ラオス全土に停戦命令を布告。

◆ラオス情報相、アメリカ軍のタイ駐留に抗議する声明を発表。

6月25日

◆訪米中のフィリピン副大統領、アメリカ・フィリピン間に新しい軍事基地協定を結ぶこと、アメリカ基地の一部を返還希望など演説。

◆ベトナム監視委「アメリカにも違反行為がある」と報告。

◆アメリカ国務省、ベトナム国際監視委の報告に関して声明を発表。

◆ベトナム人民軍、ゴ・ジンジェム軍へのアメリカ上陸用舟艇引き渡しを非難。

◆ラオス青年・学生代表団北京着。

◆オランダ外務省、インドネシア兵

新降下につきアメリカと事態を協議すると発表。

6月26日

◆アメリカ国際開発局、先に伝えられた南ヴェトナムの「アメリカ品優先買付」の緩和について「大幅な免除は認めない」と発表。

◆ラオス人民、ナムタで臨時連合政府成立の祝賀大会を開く。

◆オランダ、インドネシアの23日の西イリアン攻撃に強い抗議。

6月27日

◆南ヴェトナム海軍、フィリピンでアメリカ軍の訓練をうける。

6月28日

◆ケネディ大統領、駐ラオス大使にアンガー氏を任命。

6月29日

◆北ヴェトナム工業、今年度上期の生産目標を超過達成。

◆パテト・ラオ、抑留イギリス人を釈放。

◆イギリス外務省スポークスマン、「ラオス国際会議にタイも参加することになった。協定は15日までに調印されよう」と語る。

6月30日

◆ラオス政府筋、中共、ポーランド、東独の承認ほぼ確実と言明。

7月1日

◆アメリカ国防省、駐タイ海兵隊のうち1000人がそれぞれの所属艦隊に復帰すると発表。

7月2日

◆ラオス国際会議開く。

◆ソ連、ラオス新連合政府に60万ドルの援助を申し出た。

◆オランダ植民地主義者、西イリアンでイスラエル製兵器を使用。

7月3日

◆ソ連、イギリスへ覚え書きを手交。この中で北ヴェトナムが南ヴェトナムの無秩序の原因であるとのイギリスの主張を否定、またアメリカ軍の南ヴェトナム引き揚げを主張。

◆ラオス、北ヴェトナムと外交関係の樹立を決定。

◆スカルノ大統領、ウ国連事務総長に「西イリアン問題についてオランダ側の態度を打診するためワシントンに代表を派遣する」と通告。

7月4日

◆南ヴェトナム、ラオスが北ヴェトナムを承認したことに対して抗議。

7月5日

◆南ヴェトナム、駐ラオス大使召還。

◆ハリマン米國務次官補、プーマ首相と会談。ラオスをSEATOの防衛範囲から除外する問題を協議。

◆「ラオスの声」放送、国籍不明のジェット機侵入に抗議。

◆サラワクで政党幹部の逮捕に抗議集会。

7月6日

◆南ヴェトナム人民、戦略部落を破壊。

◆南ヴェトナム民族解放戦線代表団、プラハからモスクワへ。

◆カンボジア放送、東南ア条約機構の対ラオス「保護」取消しを要求。

7月8日

◆ヴェトナム人民軍、アメリカの南ヴェトナム侵略に抗議して「反米闘争月間」を展開。

◆ルイ・サイヤン世界労連書記長、南ヴェトナムに対するアメリカの侵略を非難。

7月9日

◆ラオス中立宣言承認さる。

◆ラオス中立宣言に関して、外国軍隊の撤退とSEATOの保護を認めない点で合意に到達。

7月10日

◆ラオス停戦委初会議。ラオス政府が6月26日宣言した停戦を実施する方法を討議するため。

7月11日

◆ラオスのサバナケット派軍隊、解放区攻撃命令を拒否。

7月12日

◆アメリカ、タイへ空軍増援部隊派遣。

◆マラヤ「死の鉄道」協会、日本に戦時中の犠牲者補償を要求。

◆インドネシア駐ソ大使、オランダとの会談のためワシントン入り。

◆インドネシア政府、アメリカの錫放出決定を非難。

7月13日

◆アメリカ國務省、西イリアン問題に関するインドネシア・オランダ会談が開かれたと発表。

7月14日

◆インドネシア平和委、台湾、イスラエルのアジア大会参加に反対する声明を発表。

南アジア

インド、パキスタン、セイロン、ビルマ、ネパール、ブータン。

6月15日

◆ハンフリー米上院議員、インドが中印国境警備補給にソ連製のヘリコプターを使っていると発表。

6月18日

◆パキスタン政府、駐中共大使にラザ少将を任命。

6月21日

◆アメリカからインドへの2億8000万ドルの借款供与に関する、アメリカ・インド借款協定が調印さる。

6月23日

◆ネール首相、アメリカ・イギリスのゴア・カシミール問題にとった態度は反インド的であると非難。

◆ビルマのバンガード紙、南ヴェトナムに2000人以上の日本人が軍事専門家の名で活動していると報道。

7月2日

◆ビルマ平和委全国大会、民族解放運動支持を決議。

7月3日

◆セイロンでアメリカ石油会社の労働者ストに入る。

7月4日

◆ビルマ革命評議会、「社会主義へのビルマの政党」をつくると発表。

7月6日

◆インド外貨準備減少し、10億ルピーの大口を割る。

7月9日

◆ビルマ革命評議会、大学6校を閉鎖し、教育制度を再検討すると発表。

7月10日

◆インド政府、「中共軍がラダク
のインド陣地を包囲している」と抗議。
◆IMF、インドに1億ドルのスタン
ド・バイ・クレジット与える。

7月13日

◆インド軍、「中共がこれ以上進軍
すれば発砲する」と言明。

西南アジア

アフガニスタン、イラン、イラ
ク、サウジアラビア、レバノン、
ヨルダン、イスラエル、シリア、
バーレン、クウェート、カタール

7月4日

◆イラク・アラブ連合技術協定
書調印。

アフリカ

6月15日

◆カサブランカ派首脳会談開く（15
～17日）。

6月16日

◆カサブランカ首脳会議、アフリカ
共同市場設立への措置をとるべきだ
との同会議経済委の勧告を確認。
◆国連のA・Aグループ、南ローデ
シア問題解決のため、国連総会がイ
ギリスにたいし、新憲法制定会議を
開くよう求める決議案を提出。

6月17日

◆FLN、ヨーロッパ人（OAS参
加）の大赦と治安軍参加を求めたO
ASの要求を認めた。
◆アルジェリア臨時政府の要請にも
とづき、アラブ連盟緊急理事会開催。

6月18日

◆国連、南ローデシア問題に関する
19カ国決議案の討議始まる。

6月21日

◆ガーナで「爆弾のない世界」会議
開会。エンクルマ・ガーナ大統領演
説でアフリカ諸国の中立を強調。

6月26日

◆国連信託委、ルアンダとウルンジ
の独立に関するAA決議案を可決。
◆コンゴのツォンベ・アドゥラ両氏
の再統一交渉決裂。

6月27日

◆イギリス植民地相、ウガンダが10
月9日に独立すると発表。

6月28日

◆タンガニーカ、12月から共和国と
することを決定。
◆国連総会、「南ローデシアの自治」
についてのAA決議案を可決。

6月29日

◆「爆弾のない世界」会議終る。会
議は29日最後の総会でアフリカ軍縮
会議の開催を提案。

7月1日

◆チュニジア・ビゼルト周辺のフラ
ンス軍事施設を接収。
◆ソ連および中国、ルワンダ・ブル
ンジ両国を承認。
◆アルジェリア民族自決投票実施。
◆ルワンダ大統領、独立記念式典で、
「中立政策をとる」と言明。

7月2日

◆ルワンダ、ブルンジ独立を宣言。

7月3日

◆アルジェリアの自決投票の開票結
果発表。99.7%が自決を支持。
◆アメリカ、アルジェリアを承認。
◆エンクルマ・ガーナ大統領、レー
ニン平和賞を受賞。

7月4日

◆EEC6カ国とアフリカ18カ国の
関係、アフリカ諸国のEEC連契を
取り決める新協定を作成。

7月6日

◆アルジェリア臨時政府、「モロッ
コ軍が侵入してきた」と発表。

7月9日

◆アルジェリア両派、和解会談開く。

7月10日

◆アルジェリア暫定政府、新議会の
選挙を8月12日に実施すると決定。
◆アラブ連合、イギリスの資産没収
を決定。

7月11日

◆アルジェリア内紛打開のためのラ
バト会談突然中止。

7月12日

◆コンゴの国連軍、カタンガ州大統
領が約束に反してエリザベトビルへ

兵力を導入したため、同市を封鎖。

7月14日

◆モロッコの通信社マグレブ・アラ
ブ通信、「アルジェリア、フランス
両軍が越境しモロッコの前線基地を
占領した」と伝えた。

そ の 他

6月16日

◆世界労連、アメリカの対キューバ
干渉に警告。

6月26日

◆ソ連国連代表団、9月の国連総会
の議題に「南朝鮮からの外国軍隊の
撤退問題」を含めるよう要請。

6月28日

◆フルシチョフ首相、「極東に非核
武装地帯をつくることが重要」であ
る旨の返書を日共に送る。
◆アメリカ海軍、サイパンの行政権
をアメリカ内務省に引き渡す。

6月29日

◆AA連帯委、アメリカの南ヴェト
ナム侵略を非難。

7月1日

◆エルサルバドル大統領にカルバヨ
中佐が就任。

7月2日

◆アメリカ第7艦隊司令官、「アメ
リカ海兵隊の一部がタイから撤収を
はじめており、日本からフィリピン
へ再展開を行なっている」と言明。

7月5日

◆国連調査団、オーストラリア信託
統治領ニューギニアに自治を与える
よう勧告。

7月6日

◆ソ連・ユーゴ議定書調印。両国の
経済関係拡大につき合意に到達。

7月7日

◆アメリカ情報機関筋、ソ連は中国
軍事援助を続行していると述べた。

7月9日

◆中立国経済会議開く。
◆「全面軍縮と平和のための世界大
会」開く。